



令和8年6月3日(水曜日)を締切としています。受験手続等の詳細については、受験案内を御確認ください。

▼詳細はこちら

○資格試験情報

[https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h\\_siken/](https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_siken/)

※お問い合わせ先

農林水産省 農産局 技術普及課

(担当：篠原) (03-3502-6460)

=====

◆農業用マルチ等プラスチック製農業資材の安定供給に向けた協力をお願い

=====

現下の中東情勢の影響を受け、農業用マルチ等プラスチック製農業資材について、安定的な調達に懸念が生じています。

これを踏まえ、経済産業省においては石油関連製品事業者に対し、安定供給の確保や需要家への偏りのない供給等について要請が行われており、農林水産省としても、農業資材の供給確保に向けた対応を進めています。

また、農林水産省では、燃料油や石油製品等の供給に関する相談窓口を設置し、サプライチェーンの目詰まり解消に向けた支援を行っています。

普及指導員の皆様におかれましても、農業者等への情報提供及び関係者への周知・指導に御協力をお願いします。

▼詳細はこちら

[https://www.maff.go.jp/attach/pdf/chuto\\_josei-11.pdf](https://www.maff.go.jp/attach/pdf/chuto_josei-11.pdf)

※お問い合わせ先

農林水産省 農産局 技術普及課

(担当：鈴木、真鍋、井出) (03-6744-2107)

++・…… 病虫害発生予報の発表について ……・++

=====

◆「令和8年度 病虫害発生予報第2号」(令和8年5月13日(水)付け)を発表しました

【消費・安全局植物防疫課】

=====

農林水産省は、今後の農作物の病虫害発生動向や防除について「病虫害発生予報第2号」を発表しました。

普及指導員の皆様におかれては、病虫害防除所等と連携し、地域での防除が確実に実施されるようご指導をお願いします。

○今後発生量が多くなると予想される主要な病虫害及び地域

- ・ 水稻では、イネミズゾウムシの発生が、北東北及び北陸の一部の地域で多くなると予想されています。
- ・ 麦では、赤かび病の発生が、北関東、東海、近畿、中国及び北九州の一部の

地域で多くなると予想されています。

- ・ 野菜では、トマトのコナジラミ類の発生が、北関東、四国及び九州の一部の地域で多くなると予想されています。また、いちごのハダニ類の発生が、北陸及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。
- ・ 果樹では、果樹カメムシ類の発生が、北陸、近畿、中国、四国及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。また、なしの黒星病の発生が、東海及び中国の一部の地域で多くなると予想されています。

この他、なしのシンクイムシ類等、地域によっては多くなると予想されている病害虫があるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に適期の防除を実施してください。

○「令和8年度 病害虫発生予報第2号」の発表について（令和8年5月13日（水）付け農林水産省プレスリリース）はこちらから（農林水産省 Web）

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/syokubo/260513.html>

※ 都道府県の発表する病害虫発生予察情報と併せてご利用ください。

○都道府県の病害虫発生予察情報などはこちらから（農林水産省 Web）

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/index.html>

※お問い合わせ先

農林水産省 消費・安全局 植物防疫課 国内防除第2班

(03-3502-3382)

++・…… 施策情報 ……・++

◆農作業安全に関する対話型研修の実施手法を習得するための研修を実施します

【農林水産研修所つくば館】

対話型研修とは、研修の参加者同士（農業者等）や研修担当者（普及指導員等）が意見交換をしながら、研修参加者が自発的に農作業安全目標を作成し、取り組むように促す研修です。

この度、対話型研修の実施手法について、実習等を通じて習得するための研修をオンラインで実施します。いずれも定員20名、同じ内容を予定しています。受講希望の方は、受講申請書と事前提出物に必要事項を記載の上、電子メールにより申し込みをお願いします。

普及指導員の皆様におかれましても、ご参加及び関係者への周知のほどよろしくをお願いします。

日時：

- ・対話型研修実施手法習得コース1：令和8年6月19日（金）9：30～16：30
- ・対話型研修実施手法習得コース2：令和8年12月9日（水）9：30～16：30

申込期限：コース1は6月5日（金）〆切、コース2は11月25日（水）〆切

▼詳細はこちら

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/tukuba/mito/anzen/08taiwa.html>

※お問い合わせ先

農林水産省 農林水産研修所つくば館（農業機械研修担当）

（029-839-9481）

◆農業現場におけるクマの出没及び人身被害防止等に対する指導等の徹底について

【農村振興局鳥獣対策・農村環境課】

近年、クマの個体数の増加や分布の拡大により、人身事故などが多く発生しています。今年度もすでに冬眠明けのクマが目撃されており、東北地方ではクマ出没警報や注意報が発令されている状況です。

クマは、高い学習能力によって、一度エサを見つけると、それに執着するなど危険な行動を誘発する可能性があるといわれています。

農業現場においてクマとの遭遇を避けるため、農作物の収穫残さや放置された果実等の誘引物の除去など、クマへの注意・対策が必要であり、農林水産省から各都道府県あてに通知したところです。

普及指導員の皆様からも農業者等への指導及び注意喚起の徹底について、ご指導の程よろしくお願ひします。

○農林水産省作成リーフレット「クマにご注意下さい！」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/tyuuikanki/attach/pdf/index-18.pdf>

○農林水産省から都道府県あての注意喚起の通知

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/tyuuikanki/index.html>

○環境省 WEB サイト「クマ類の出没対応マニュアルー改定版ー」（外部リンク）

<http://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5-4a/index.html>

○環境省 WEB サイト「クマに関する各種情報・取組」（外部リンク）

<http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/effort12.html>

※お問い合わせ先

農林水産省 農村振興局 鳥獣対策・農村環境課

（担当：高木、藤邑）（03-6744-7642）

◆農業技術の基本指針（令和8年4月）を公表しました

【大臣官房政策課技術政策室】

農林水産省では、都道府県をはじめとする関係機関における農業技術関連施策の企画、立案、実施等に当たっての参考となるよう、食料安全保障、環境対策、生産性向上等の農政の重要課題に即した技術的な対応や、営農類型別の留意事項、農業の発展に資すると期待される新技術を取りまとめ、毎年、「農業技術の基本指針」として公表しています。本年も、情勢変化を踏まえ改定を行いました

ので、「農業技術の基本指針」(令和8年4月)として公表しました。

本指針の詳細については、下記の農林水産省ホームページをご覧ください。

普及指導員の皆様におかれましては、本指針に掲載している技術や関連情報を地域の実情や生産者の経営判断に応じた技術指導・支援にご活用いただければ幸いです。

▼詳細はこちら

農業技術の基本指針(令和8年4月)(農林水産省 Web)

[https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/g\\_kihon\\_sisin/r8sisin.htm](https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/g_kihon_sisin/r8sisin.htm)  
[1](#)

※お問い合わせ先

農林水産省 大臣官房 政策課 技術政策室

(担当:中野、小松崎)(03-3502-3162)

=====

◆農薬危害防止運動が始まります

【消費・安全局農産安全管理課】

=====

6月1日から農薬危害防止運動が始まります。

令和8年度の運動テーマは、昨年を引き続いて「使用前、周囲よく見て ラベル見て」です。普及指導員の皆様におかれましては、農薬が安全かつ適正に使用され、農薬による事故・被害が発生しないよう、各地域の実情に応じた取組を進めていただくよう、ご協力のほどよろしくお願い致します。

<特に注意するポイント>

- (1) 農薬ラベルによる使用方法の確認
- (2) 土壌くん蒸剤使用時の適切な取扱い
- (3) 住宅地等で農薬を使用する際の周辺への配慮及び飛散防止対策
- (4) 誤飲・誤食、盗難等防止に向けた適切な保管・管理

▼詳細はこちら

[https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_tekisei/](https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/)

※お問い合わせ先

農林水産省 消費・安全局 農産安全管理課

(担当:岡田、堀野)(03-3501-3965)

=====

◆公募期間中です!働きやすい環境づくりのための「雇用体制強化事業」

【経営局就農・女性課】

=====

人材への投資を進める農業経営者がどんどん増えています!

農業現場で、就業規則の策定や作業工程の見直し等の「働き方改革」に取り組む皆さんを応援する「雇用体制強化事業」は、現在公募期間中です!

詳細は、(公社)日本農業法人協会のホームページ(以下リンク先)をご参照ください。

**【募集期間】**

令和8年3月30日（月）から令和8年7月31日（金）まで。

**【支援額】**

1 協議会※あたり 2,000 万円（定額）

または就労条件改善に取り組む農業経営体数×100 万円のいずれか低い方が上限

※農業経営体 3 経営体以上と関係機関（地方自治体、J A 等）1 者以上で構成。

普及指導員の皆様におかれましては、雇用体制強化事業の周知についてご協力をお願いします。

▼詳細はこちら（外部リンク）

<https://hojin.or.jp/agri/r6koyoutaisei/>

※お問い合わせ先

農林水産省 経営局 就農・女性課

（担当：菅原、石川、福士）（03-6744-2160）

◆生産者と食品事業者をつなぐ「産地連携フォーラム」のご案内

**【大臣官房新事業・食品産業部食品製造課】**

食品業界において、国産原材料志向が高まっていることから、生産者、食品事業者等が互いのニーズを共有しながら、連携して長期安定取引を行う「産地連携」の取組を推進するため、農林水産省では「産地連携フォーラム」を立ち上げています。

本フォーラムでは、生産者に向けても、産地連携に役立つ情報や事例の発信を行っています。また、この取組計画の下で食品事業者が産地に農業機械・資材を貸与・提供する取組に対する補助事業も措置しています。

普及指導員の皆様におかれましては、産地連携に興味・関心のある生産者・産地等に対する情報提供をいただけますと幸いです。

▼詳細はこちら

<産地連携フォーラム>

<https://agriculture-foodindustry-regionalsourcing.maff.go.jp/>

<令和7年度補正予算 農林水産省補助事業産地連携支援緊急対策事業>（外部リンク）

<https://www.lapita.jp/maff/sanchirenkei2026/>

※お問い合わせ先

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 食品製造課

（担当：河野・伊東）（03-6738-6166）

◆「スマート生産方式 SOP(スマート農業技術導入・運用手順書)作成研究」公募の採択

【農林水産技術会議事務局研究企画課、農研機構】

農研機構は、スマート農業技術の導入を推進するための事業「スマート生産方式 SOP(スマート農業技術導入・運用手順書)作成研究」の事業実施主体となり、研究を実施します。

本事業の応募があった10課題について、外部の有識者等による厳正な審査を踏まえ、農林水産省が設置した運営管理委員会において採択課題が決定されました。

普及指導員の皆様におかれましては、採択課題を確認していただき、現場でのご指導にお役立ていただけますと幸いです。

▼詳細はこちら (外部リンク)

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/naro/175083.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/naro/175083.html)

※お問い合わせ先

農研機構お問い合わせフォーム (外部リンク)

<https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究企画課

(担当：吉田、佐藤、松永) (03-3502-7407)

◆「汚泥肥料、菌体りん酸肥料の肥効見える化アプリ」(畑地版)の公開

【農林水産技術会議事務局研究企画課、農研機構】

農研機構、土木研究所及び京都大学などから構成される「肥効評価に基づく下水汚泥肥料活用促進コンソーシアム」は、畑地に施用した汚泥肥料等からの養分供給量を試算(見える化)するウェブアプリを作成し、公開しました。

畑の位置、汚泥肥料の種類(コンポスト、乾燥汚泥など)、施用量や時期を選択するだけで、施用した汚泥肥料等からの平均的な養分供給量が表示され、それを参考に、化学肥料の施用量を減らすことができます。

汚泥肥料等の農地施用を促進することで、肥料原料の輸入依存の軽減と、国内での肥料資源の循環利用に貢献します。

普及指導員の皆様におかれましては、本アプリの活用をご検討いただき、現場でのご指導にお役立ていただけますと幸いです。

▼詳細はこちら (外部リンク)

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/niaes/174717.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/niaes/174717.html)

※お問い合わせ先

農研機構お問い合わせフォーム（外部リンク）

<https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究企画課

（担当：吉田、佐藤、松永）（03-3502-7407）

◆病害抵抗性・多収・高品質を兼ね備えた中生の茶品種「りんめい」

【農林水産技術会議事務局研究企画課、農研機構】

農研機構は、主要な病害に強く、収量と品質に優れた中生の茶品種「りんめい」を育成しました。

「りんめい」は、炭疽病と輪斑病に対する抵抗性を有し、育成地において化学合成薬剤を使用せずに栽培した場合、一番茶から三番茶までの収量は「やぶきた」の2.5倍と多収です。

新芽は鮮やかな濃緑色で、被覆栽培（新芽を遮光資材で覆って育てる栽培方法）を行うと色合いが一層向上するため、高品質な煎茶、かぶせ茶、粉末茶、てん茶の製造に適しています。

これらの特徴は、輸出や有機栽培の拡大に貢献することが期待されます。

普及指導員の皆様におかれましては、研究成果を詳しく知っていただける内容となっておりますので、ぜひご覧ください！

▼詳細はこちら（外部リンク）

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nifts/175584.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/175584.html)

※お問い合わせ先

農研機構お問い合わせフォーム（外部リンク）

<https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究企画課

（担当：吉田、佐藤、松永）（03-3502-7407）

◆飼料用トウモロコシ新品種「ハヤミノルド」の種子の販売開始

【農林水産技術会議事務局研究企画課、農研機構】

農研機構と北海道立総合研究機構は、飼料用トウモロコシ新品種「ハヤミノルド」を育成しました。

本品種は、超極早生で、北海道の根釧・道北の気温が低い地域（栽培限界地帯）での無マルチ栽培が可能であることに加え、北海道内の温暖な地域では秋小麦播種前の8月下旬から9月上旬に収穫できることから、従来品種よりも栽培期間が短い特性を生かしたさまざまな作付け体系に対応可能です。

また、病害に強く、倒れにくいことから、北海道内のトウモロコシ作付面積の増加、良質サイレージ原料の安定栽培および作業分散など生産性向上への貢献が期待されます。

